



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	小特集 : 科学技術社会論学会シンポジウム2013 さっぽろ地球温暖化問題と科学コミュニケーション : 哲学者と科学者と社会学者が闘論
Citation	科学技術コミュニケーション, 14, 45
Issue Date	2013-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53766
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	other
File Information	JJSC14_004.pdf



小 特 集

科学技術社会論学会シンポジウム 2013 さっぽろ 地球温暖化問題と科学コミュニケーション ～哲学者と科学者と社会学者が闘論～

2013年9月27日、北海道大学CoSTEPと科学技術社会論学会が共同で、「地球温暖化問題と科学コミュニケーション」をテーマとしたシンポジウムを開催した。登壇者3名の論考を集めたのが、この小特集である。

シンポジウムのパネリストは、松王政浩、江守正多、三上直之の3氏であり、それぞれ、哲学者、科学者、社会学者としての立場から論を展開してもらった。

まず、哲学者の松王氏から、「リスクアセスメント（事実判断）とリスクマネジメント（価値判断）を分離することができるのか」「温暖化をテーマにWWViews（市民参加の一手法）を実施して何かが変わったのか？」など、江守氏、三上氏それぞれに対して問題提起がなされた。前半の1時間は、両氏がこれに応答する形で議論が進んだ。

後半は、「これまでの議論では“地球温暖化問題に固有な論点”が出ていない」という江守氏の発言を承け、松王氏、三上氏が応答する形となり、真摯な議論が続いた。

シンポジウムの運営に際しては、議論の前提となる情報を「ガイドブック」にまとめて事前に参加者に公開する（<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/sympo/guidebook/>）、最大7面のマルチスクリーンを利用可能なイベントスペースを会場とする、USTREAM（インターネット）中継を行う、クリッカーを使用して会場の参加者の意見を募る、終了後にワインを飲みながら登壇者と参加者がフリートークを楽しむ時間を設けるなど、カジュアルな対話の場を創出するための様々な工夫を凝らした。

シンポジウムの様子は、USTREAMで生中継するとともに、以下のURLに記録映像を公開している。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/sympo/>

今回の小特集では、登壇者3名に、シンポジウムでのそれぞれの発表内容をもとに新たに原稿を書き起こしてもらい、寄稿してもらった。